

社長メッセージ

大きな環境変化にも柔軟かつ迅速に対応して、 持続的な成長を実現します



取締役社長

宮崎 直樹

株主・投資家をはじめとする全てのステークホルダーの皆様にご挨拶申し上げます。

大きな環境変化を受けて

自動車業界では、自動運転や電動化を巡る激しい開発競争が、驚異的な速さでグローバルに進展するなど、当社の主力事業を取り巻く環境は、すでに大変革の波にさらされていますが、この先にはさらに大きな変化が予想されています。この大きな流れの中で持続的に成長していくためには、これまで以上にスピード感を持って変化に迅速に対応すること、特に既存の価値観にとらわれないイノベーションへ果敢に挑戦すること、そして限りあるリソースを有効活用していくことが必要だと考えております。

2017年度を振り返って

昨年度は、戦略性の高い会社を目指し「先読み・積極果断」をキーワードに、事業運営に取り組んで参りました。

事業基盤を強化するため、成長著しい新興国へ積極的に生産拠点を設けました。高度成長を続けるインドでは北部バワル工場の稼働に加えて、西部グジャラート州に新工場を設立。ブラジルでは内外装事業を行うベクバル社を子会社化、ベトナムにも新工場を設立しました。

また、各国で導入・強化される安全規制により、グローバルで需要の増加が予想されるエアバッグ事業のさらなる拡大のため、エアバッグ部品製造の大手企業様と相次ぎ資本提携を行いました。

製品開発でも、高度運転支援システムに対応したグリップセンサー付きハンドル、顧客より表彰いただいた新開発ウェザーストリップなど、安全・快適の分野で付加価値を高めた製品を市場投入することができました。また、東京モーターショーでも、近未来の自動運転時代を想定した次世代コンセプトモデルなどを出品し、当社の将来像について来場者の皆様に深くご理解いただきました。

2018年度は「総力結集」の年

自動車部品の構成自体も変化しつつあります。その一例として部品の発注単位は従来よりも大きくり化される可能性があります。単品ではなくモジュールやシステムとして開発から設計、納品までできることが、顧客にとって選ばれるサプライヤーの条件になることが予想されます。

この流れに対応するため、製品開発を例に挙げますと、コックピットやフロントグリル周りの製品では、当社の強みであるゴム・樹脂を中心とするコア技術に電子部品なども加えた、モジュールでの製品開発を加速しています。

「ゴム・樹脂のノウハウ」や「グローバル対応力」といった自社の強みにさらに磨きを掛ける一方で、全てを自社だけで対応するのではなく、仕入先様や、ビジネスパートナー、ベンチャー企業の皆さんなどと一体となり、社内外の知見を高め、ONE TEAM, ONE TG.の精神で「総力を結集」し、さらなる成長へつなげて行きたいと考えております。

「2025事業計画」の策定

2018年5月、当社の「戦略性」を具体化するものとして、中長期経営計画「2025事業計画」を策定いたしました。本計画は、不確実性の高い時代の中でも、この事業環境の変化をチャンスと捉え、当社が存在感や強さを発揮すべき領域で、世界のお客様から選ばれるグローバルサプライヤーでありたいという決意を示しています。

「2025事業計画」は、①改めて定義し直した「私たちの目指す姿」、②分野ごとに設定した「経営目標」、③これらを実現するための指針である「3本の活動の柱」からなります。この計画を一つひとつ着実に実行していき、持続的な成長を目指して参ります(P16参照)。

ステークホルダーの皆様へ 「新経営理念」

当社は2018年4月に経営理念を8年ぶりに改定しました。経営理念はかつて経営者や従業員のものと考えられていましたが、近年は社内外のステークホルダー全員が共有する価値としての側面が強くなってきました。

また、社会の変化により、企業の社会的責任を果たす意思を社会に表明することが求められるようになってきました。

以上を踏まえて、「経営理念はステークホルダーへの宣言」という考えに基づき、言葉の見直しや項目の入れ替えを行いました(次頁図1参照)。

企業は社会の公器、つまり経済、社会の発展あってこそその存在である、ということを念頭に「社会への貢献」を第1項に、そのステークホルダーからの信頼のベースとなる「適正な事業活動」を第2項としました。続く第3～5項は各ステークホルダーへ向けた宣言となっています。第6項は企業が社会的責任を果たすために全ての基盤となる、私たち自身への宣言としました。

新経営理念を通じた「ステークホルダーへの宣言」

1. 社会への貢献

【主なステークホルダー】 全てのステークホルダー

企業は経済・社会の発展なしに存在も成長もできません。グローバル企業として文化や慣習の違いに配慮しながら事業を進め、地域社会が抱える課題の解決に向けて積極的に取り組んでいきます。

2. 適正な事業活動

【主なステークホルダー】 全てのステークホルダー

自らを律して誠実な事業活動を行って参ります。法令遵守というまでもなく、経営の健全性や効率を確保する体制や仕組みを構築し、ステークホルダーから信頼される会社を目指します。

3. 持続的な成長

【主なステークホルダー】 株主様、豊田合成グループ、仕入先様

豊田合成の発展は、多くの仕入先様に支えられています。さらなる成長、発展とともに目指して切磋琢磨するとともに、グループの総合力をアップし幅広いステークホルダーの期待にこたえます。

4. お客様の満足

【主なステークホルダー】 お客様

モノづくりの会社として、お客様に良品で廉価なサービスをタイムリーにお届けすることは当然のことです。そのために技術やモノづくりの革新、サプライチェーンの強化などにも絶え間なく取り組んでいきます。

5. 地球環境・資源の保全

【主なステークホルダー】 社会

美しい地球を未来に残すことは今、この時代に生きる私たちの使命です。企業の存在と活動に必須の要件として、当社の保有する技術やノウハウを活用し、積極的に環境問題に取り組んで参ります。

6. 人間性の尊重

【主なステークホルダー】 従業員

会社の成長を支える基盤は私たち自身です。仲間を互いに尊重すること、チームとして協力すること、チームとして協力することの両輪で、私たち自身が成長するとともに、従業員が志が高く、生き生きと働ける企業を目指します。

[図1]



ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み

前項で、ご紹介しました「新経営理念」にはその考えをすでに反映しておりますが、昨今、世界的にESG(環境、社会、ガバナンス)の考え方が注目されております。当社ではその概念が生まれる前からそれぞれの分野に注力して参りました。

一例を挙げれば、本報告書の前身である「豊田合成レポート」は当社の環境報告書をその起源としております。環境への貢献活動は従来から精力的に取り組んでおり、2018年の日経環境経営ランキングでは製造業10位の評価をいただきました。

2015年に国連で採択され、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標:SDGs」においても、環境問題は大きく取り上げられており、対策の一層の強化・充実が求められています。

こうした流れも踏まえ、当社は1月に環境部を生産本部から社長直轄に移管いたしました。今年度は本部をまたいだ全社横断的な活動を行っています。

社会貢献活動についても、地域社会に根ざし、地域とともに発展する企業を目指し、従業員による活動を世界各地で積極的に行っており、今後もこれを継続して参ります。

ガバナンスの観点でもコーポレートガバナンスコードの改訂にタイムリーに対応するなど、社会の求める企業統治のあるべき姿を満たす会社であり続けたいと考えております。

